

降誕前節第2主日・待降節第3主日・アドベント(紫)  
主日礼拝

2025年12月14日 10時20分～

司式:  
奏楽:

《神の招き》

前 奏 『来たりたまえ、われらの主よ (賛美歌 241)』 C. フランク  
灯火入堂 アコライト: 教会学校  
招 詞 イザヤ書7章14節  
賛 美 歌 2 4 1

《神の言葉》

祈 禱 アドベントの祈り  
聖 書 イザヤ書56章1～8節 (旧約1138頁)  
ルカによる福音書3章23～38節 (新約105頁)

子ども説教  
交読詩編 詩編85編1～14節 (101頁)  
賛 美 歌 2 3 7  
説 教 「ヨセフの子」 八木浩史牧師  
祈 禱  
賛 美 歌 2 7 3

《感謝の応答》

信仰告白 使徒信条  
献 金  
祈 禱 献金当番  
主の祈り (週報表紙、ホームページ掲載)

《派 遣》

頌 栄 2 6  
祝 福  
報 告  
後 奏

「ヨセフの子」

『イザヤ書』は「第三イザヤ書」(56～66章)の巻頭となる箇所であり、バビロン捕囚終結(前538年)後、エルサレム神殿を再建した(前515年)以降の時代に書かれた部分です。捕囚後のイスラエルにとっての大きな問題は、異邦人や、バビロンやペルシアに宦官として仕えた人々を共同体に入れるかどうかでした。律法(申命記23:2-3)によれば、彼らは会衆に加わることができませんでした。それゆえ異邦人や宦官は「主はご自分の民から私を分け離す」と嘆いていたのです。しかし主は、安息日と契約の遵守を条件に、「祈りの家」であるエルサレム神殿の祝いに招き入れるのだと言われるのです。またさらに人々が集められ、すでに集められた者たちに加えられるとのこと。それゆえ「私の家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる」のだとのことです

『ルカによる福音書』は「イエスの系図」の箇所です。マタイ福音書の系図とは異なり、主イエスから先祖へ遡る方向で書かれています。マタイ福音書では、アブラハムに始まる系図であり、神の民イスラエル(ユダヤ人)に関する系図でしたが、ルカ福音書ではアブラハムを超えてアダムへ、さらに神へと至ります。それは民族の枠を超えて、全ての人のために神の子である主イエスがキリスト(救い主)として、世にお生まれになったことを証しているのです。聖なる神の子でいらっしゃる主イエスは、処女マリアを通してお生まれになりました。貧しい大工のヨセフが、養父となったので、人々からは「ヨセフの子」と思われていたのです。そこから救い主の栄光が、世界中に輝き出るのである。

礼拝当番: (役員: ) 献金当番:  
音響: 映像: